

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2017年 1 月 15 日
事業ID: 2015329442
事業名:海上アスレティック及び
学習会の開催 (海でつながる)
団体名:鳥取ウォーターパーク
実行委員会
代表者名:高垣 周平 印
TEL:09064162609
FAX:0857882014
事業完了日:2016 年12月31日

事業費総額 17,152,589 円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 3,692,589 円

助成金額 13,460,000円 (千円未満は切り捨て)

返還見込み額 0 円

事業内容:

近年、多くの子供たちや若者が、「海」を楽しいと感じ、「海」の姿を知り、「海」を大切なものとして感じる機会が減少している。この背景には、生活環境のデジタル化といった変化による多種多様な価値観の広まりや、現代ならではの新たな刺激(スマートフォンによる様々な情報やゲームなど)の出現と生活への浸透がその理由だと考える。

地域社会に生き、将来を担っていく子供たちが、今までにないユニークな海での体験を通じて、「海」に触れ、海を身近なものとして「楽しい」「海っていいな」と感じ、「地域の海」を理解し大切に作る心が醸成されることを目的として開催した。

また地域の各団体や企業、行政や教育機関、学校、メディアと連携を取り広く事業を周知しながら、新たな繋がりや連携を拡大させていく事で、より当団体の理念に基づく運動が地域に根付いていく事を見据えプロジェクトを遂行した。

1. 「海の日」理解促進イベントの開催

(1)時 期:7月18日 午前の部： 午後の部 計2回

(2)場 所:鳥取県岩美郡岩美町浦富

(3)参加者: 99名

(4)内容

- a.ウォーターパークでのアクティブ体験を開催し参加児童に新しい形で海を存分に楽しんでもらった。
- b.地域の海を知るセミナーをかにクン（中谷英明 氏）を講師に開催した。

2.海的安全理解イベント の開催

(1)時 期:7月～8月（7月23日、30日 8月6日、11日）計4回

(2)場 所: 鳥取県岩美郡岩美町浦富

(3)参加者: 106人

(4)内容

- a.海の危険を知るセミナーを福原陽一郎氏（山陰海岸ジオパーク公認ガイド）を講師に開催した。
- b.ウォーターパークでのアクティブ体験を開催し参加児童に新しい形で海を存分に楽しんでもらった。

3.地域資源理解のための海の幸理解イベント の開催

(1)時 期: 7月～8月（7月24日、31日、8月7日、12日） 計4回

(2)場 所: 鳥取県岩美郡岩美町浦富

(3)参加者: 263人

(4)内容

- a.地域の海の幸を知るセミナーを公立鳥取環境大学 地域イノベーション研究センター 特命准教授 太田 太郎先生を講師に開催した。
- b.ウォーターパークを利用した地域の海の幸当て競争は波の状況を考慮し、競争という形を止め、通常のウォーターパークでのアクティブ体験を開催し参加児童に新しい形で海を存分に楽しんでもらった。

プロジェクトの記録（写真）

①朝獲れ！浦富定置網の小魚調査×ウォーターパークで遊ぼう！！

第1回：7月18日 9：00-12：30 / 第2回：7月18日 14：00-17：30



②海水浴の危険を学ぼう！×ウォーターパークで遊ぼう！！

第1回 7月23日 9:00-12:30 / 第2回 7月30日 9:00-12:30

第3回 8月6日 9:00-12:30 / 第4回 8月11日 9:00-12:30



③波打ち際の生き物を調べよう！×ウォーターパークで遊ぼう！！

～「ヒラメの赤ちゃん放流体験」「浦富の海で獲れたものバーベキュー体験」～

第1回 7月24日 9:00-12:30 / 第2回 7月31日 9:00-12:30

第3回 8月7日 9:00-12:30 / 第4回 8月12日 9:00-12:30



1.事業目標の達成状況:

【申請時の目標】

海上アスレチックパーク（ウォーターパーク）を活用する事により、海に関心のない子供達でも好奇心を掻き立てられ、海に触れるきっかけを生み、海で体を動かしておもいきり遊ぶ楽しさや体感と、セミナーによる「知る・学ぶ」喜びや楽しさを通じて、海への親和性の向上や新たな喜びなどへの気付きが生まれる。

- 1、子どもたちが海に触れるきっかけが増える。
- 2、子どもたちが、新たな海での楽しみ方を知る事で、海に触れる方法を自ら考え出す。
- 3、「海を知る」、「海の危険を知る」、「海の幸を食す」といったイベントを通じて、海に関わる経験と知識が向上する。
- 4、ユニークな学習方法を家族で一緒に経験する事によって、子ども同士、親子のコミュニケーションが生まれ繋がりが醸成される。
- 5、様々な体験や学習を通して「地域の海」を大切に作る心が醸成される。
- 6、海洋のごみ問題による海の生物の生態系への影響を知る事で、ゴミを捨てたりしない事や、海や海岸を綺麗に保とうとする意識が芽生える。
- 7、海の様々な危険についての正しい知識を持つ事で海の事故が減る。
- 8、海に関わる仕事がしたいという想いが生まれるきっかけとなる。

« 数値目標 アンケート調査において »

以下のアンケート項目と数値を目標とした。

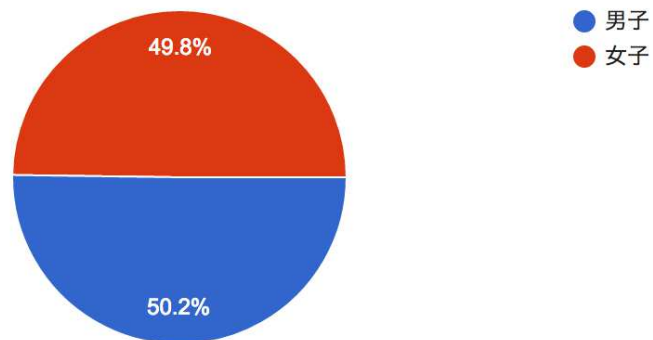
- 1、地域の海をきれいに保てるように行動し、周知したいと思った=90%以上
- 2、海の様々な危険が分かった・海には危ない事が沢山あるので周りにも教えてあげたいと思った=80%以上
- 3、スマホやゲームよりも海に触れる事を楽しいと感じた=80%以上
- 4、来年もまた本イベントに参加したい=80%以上
- 5、海に関わる仕事がしたいと思った=60%以上

【目標の達成状況】 プロジェクトの結果（アンケート調査結果）

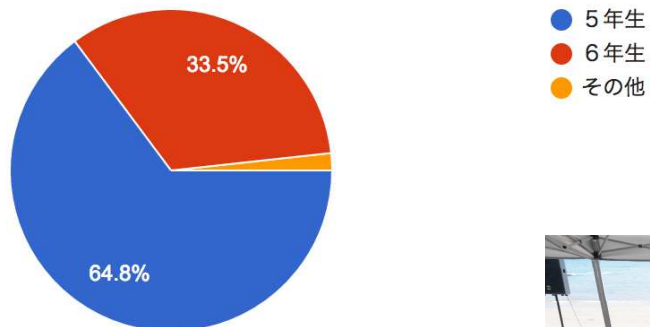
①全体参加者と属性

鳥取県内全域の小学校全校にチラシを配布して参加者を募集した。身長制限などから5年生以上とした。予想に反して6年生よりも5年生が多かった。また、男女比については大凡男女の比率が同じであった。

性別（466件の回答）



学年（463件の回答）



②感想概要【セミナーは楽しかったか？・・・講義/グループワーク】

【講義（セミナー）について】

楽しかった：79.6% / 楽しくなかった（あまり楽しくなかった含む）：21.4%

【グループワーク について】

楽しかった：84.2% / 楽しくなかった（あまり楽しくなかった含む）：15.8%

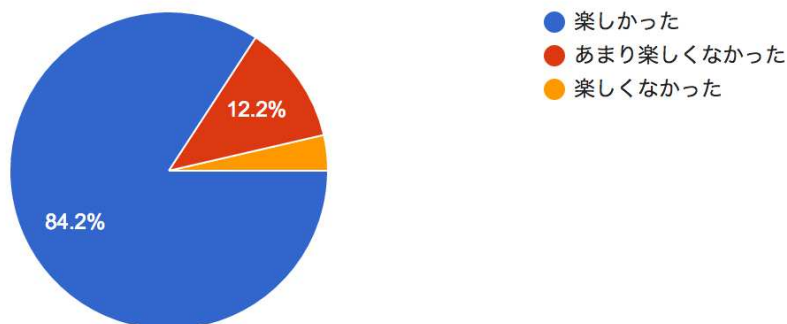
講義・グループワークともに「楽しかった」が大勢を占めたが、「楽しかった」割合においてグループワークが講義を上回った。この理由としては、じっと砂浜に座ったまま講義を聴く許容時間が、こちらが想定した時間よりも短かったことによると考えられる。講義時間を45分から60分としたが30分程度が適当であったと思う。

グループワークは、1グループを約10人とし、グループごとに大学生などのグループリーダーを配置した。講義で聞いたことの中から、2～3の話題を取り上げ参加の子どもたち同士がグループリーダーのファシリテートに従って話し合う形をとった。

この中で、参加の子どもたち同士が闊達に意見交換をしたり、グループ代表として発表したりすることを楽しんでいた。「楽しかった」の項目で講義をグループワークが4.6ポイント上回った結果がそのことを表していると考えられる。

今回のセミナーの内容は楽しかったですか？【グループワーク】

(443件の回答)



③海は楽しいと思ったか？

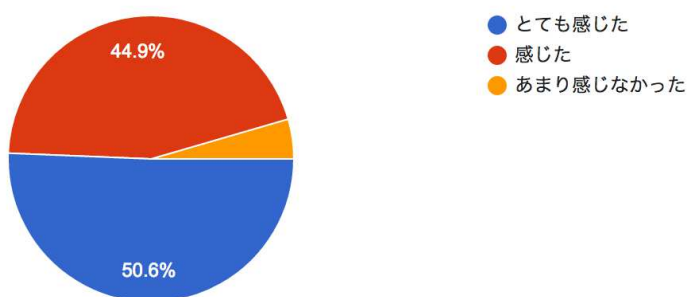
とても感じた 50.6% 感じた 44.9% 合計 95.5%

セミナーを受け、会場の浜で獲れた魚などに実際に触れ、バーベキューで食したりした後の、フロリック・シーアドベンチャーパークでのアトラクション体験が子どもたちには新鮮で刺激的であったと感じた。

更に、学んだ場所や講義内容が海に直接関心を持つことに繋がった。その結果、「とても感じた 50.6%」、「感じた 44.9%」 「合計 95.5%」の数字に表れた。

海は楽しい、いいなと感じ海に関心を持ちもっと知りたいと感じた

(468 件の回答)



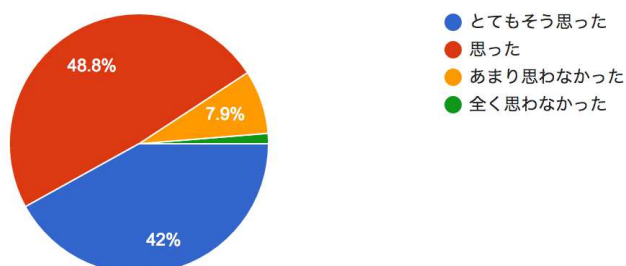
④海を大切にしようと思ったか？

とてもそう思った 42%、 思った 48.8% 合計 90.8%

子どもたちが海の近くで海のことを学ぶリアリティのある体験が、その場所を大切にしたいと思うことに大きく影響していると考えます。とてもそう思った 42%、思った 48.8% 合計 90.8%の結果に表れている。

地域の海を大切にしようと思い、周りにも大切にするように呼びかけたいと思った

(467 件の回答)

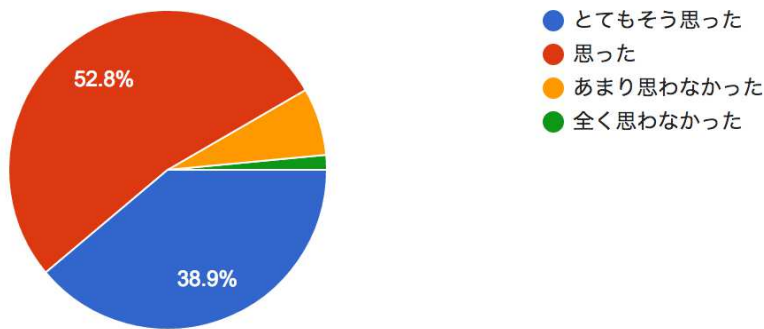


⑤海をきれいにしたいと思ったか？

とてもそう思った 38.9%、思った 52.8% 合計 91.7%

この数字は、子どもたちが海の近くで海のことを学ぶリアリティのある体験が、その場所をきれいにしたいと思うことに大きく影響していると考えられる。また、その気持ちを周りに周知していこうと思うという積極的な気持ちに繋がっていると考えられる。

地域の海をきれいに保てるように行動し、周知したいと思った (468 件の回答)



⑥海の危険が分かったか？

とてもそう思った 53.4%、思った 39.7% 合計 93.1%

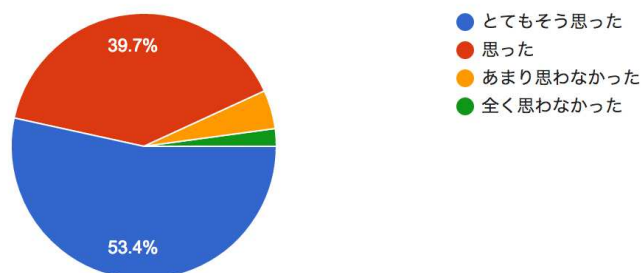
この結果は、合計ポイントの高さもさることながら、とてもそう思った 53.4%の高いポイントが特筆されるべきものだと考える。

講義の内容も、子どもたちが海で遊ぶ際の様々な危険（海流・岩場・危険生物）について言及している。子どもたちは「離岸流」の怖さ、「ひょうもんだこ」等に見られる一見危険に見えない生物の危険に鋭く反応していた。

本セミナーで伝えたかったことの一つが効果的に子どもたちに伝わっていることを実感できる結果である。

海での危険がわかった・海には危ないことが沢山あるので周りにも教えてあげたいと思った

(468 件の回答)



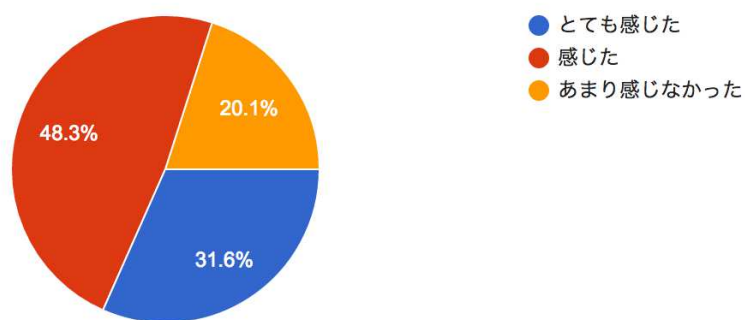
⑦スマホ・ゲームより楽しいと感じたか？

とても感じた 31.6%、感じた 48.3% 合計 89.9%

本調査項目が全ての調査項目の中で3番目に低い結果となった。子どもたちの中にあるスマホやゲームの存在感がわれわれの想像以上に大きいことが分かった。

1度や2度の体験によってこの大きさを小さくしていくことは難しいと感じるが、体験回数を重ねることによってより「海がスマホやゲームより楽しい」と感じる子どもたちを増やしていけると考えている。

スマホやゲームよりも海に触れることのほうが楽しいと感じた (468件の回答)

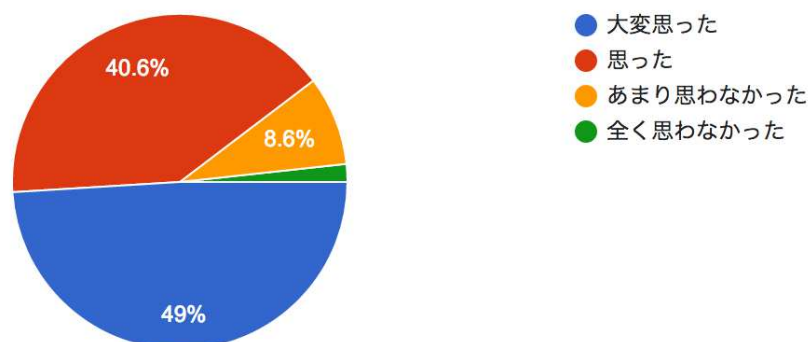


⑧来年もまた参加したいか？

大変思った 49%、思った 40.6% 合計 89.6%

約90%の子どもが次回も参加したいと答えている。繰り返しこのようなイベントを実施することで、本調査項目全てにおいて子どもたちへの啓発を広げていく必要性を感じた。

来年もまた本イベントがあれば参加したい (465件の回答)



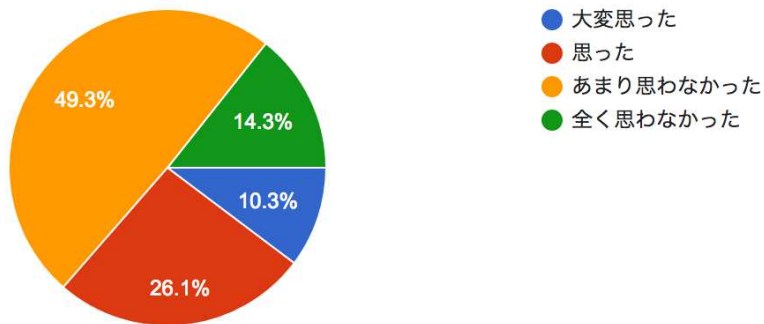
⑨海に関わる仕事がしたいと思ったか？

大変思った 10.3%、思った 26.1% 合計：36.4%

仕事に繋がる講義・グループワークがなかったこともあり、この調査項目ではポイントが非常に低い結果となった。

次回開催の際には「海の仕事」に関するものを入れる必要性を感じた。

海にかかわる仕事がしたいと思った (467 件の回答)



2.事業実施によって得られた成果：

「数値目標 アンケート調査結果」

- 1、地域の海をきれいに保てるように行動し、周知したいと思った＝目標90%以上 **結果：91.7%**
- 2、海の様々な危険が分かった・学んだ事を周りにも教えてあげたいと思った＝目標80%以上 **結果：93.1%**
- 3、スマホやゲームよりも海に触れる事を楽しいと感じた＝目標80% **結果：89.9%**
- 4、来年もまた本イベントに参加したい = 目標80%以上 **結果：89.6%**
- 5、海に関わる仕事がしたいと思った = 目標60%以上 **結果：36.4%**

3.成功したこととその要因

ウォーターパークを組み合わせた事は大きな成功の要因と考える。また講義内容・グループワークは適当であった。フィールドワークにも似た臨場感が子どもたちの学習意欲を向上させ、子どもたちの関心を大いに惹くことができ海に関する関心を高めることに成功したと感じる。

内容で追加する項目があるとしたら「海に関する仕事」の項目が必要であると感じた。

場所の設定、時間の配分、講師の選定などは適当であったと考えるが、講義の時間をもう少し短くするのが改良点である。

また、グループワークの効果が高いことが再認識された。子どもたちが自分で考え、発言することで、より学習した実感や、学んだことを普段の生活で活かすことが促せたと考える。

安全・衛生管理についても、子ども10人に1人以上のグループリーダー（大学生などのボランティア）を配置したことが功を奏して、怪我・病気などの発生は皆無であった。

4.失敗したこととその要因

募集目標人数に対して参加人数が達成率約40%であったことについては、募集開始のタイミングが遅かった事と、申込方法がWEB申し込みに限られており、電話、FAXでの申込対応をしばらく整えられなかった事が主たる要因と考える。また、募集範囲の小学校が広範囲であったこと（会場から最も遠い小学校で100km離れている）や、土日ということもあり子どもたちの夏休みの行事等が重なっていたこと等がその理由であると考えられる。今後は近隣の（片道30km圏内程度）小学校と事前の協議・話し合いなどを含めて密な関係性を構築しながら、早めの募集をかけていく方向性が必要と感じた。

もう1点、当初企画していたウォーターパークを利用した「地域の海の幸当て競争」の実施を見合わせた。その理由としては、予報や当日現場で波の状況（波高など）を確認し、競争という形でのウォーターパーク体験は、夢中になり無理して急いだり行きすぎたアクションをすることも考えられ、安全に実施できない可能性を考慮し、通常（競争といった形ではない）のウォーターパーク体験に切り替えた。

事業成果物：

- ・ウォーターパーク動画

<https://www.youtube.com/watch?v=mGO-oIOX1zg>

<https://www.youtube.com/watch?v=7EZ20M7APIA>

https://www.youtube.com/watch?v=UtN96l_Ye0U

<https://www.youtube.com/watch?v=7FuoRuq5tQg>

<https://www.youtube.com/watch?v=IBC6-5VJDj8>

<https://www.youtube.com/watch?v=RGhdqObgIIU>

- ・事業報告書
- ・アンケート調査結果
- ・イベントパンフレット
- ・事業開催の様子写真

<https://drive.google.com/drive/folders/0BwftZL9yQ3KDdWxheUhubHZCRUk?usp=sharing>

- ・メディア掲載

<https://drive.google.com/file/d/0BwftZL9yQ3KDMWNyb2JzVy1pdUE/view?usp=sharing>

<https://drive.google.com/file/d/0BwftZL9yQ3KDRUR6WFZPRm9MbEE/view?usp=sharing>

収支計算書

(2016 年 5 月 10 日から 2016 年 12 月 31 日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	13,460,000	13,460,000	13,460,000	0	
自己負担	4,380,000	3,692,589	3,692,589	0	
収入合計	17,840,000	17,152,589	17,152,589	0	

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
消耗什器備品費	5,957,000	5,380,484	5,380,484	0	
消耗什器備品費	1,744,900	1,675,025	1,675,025	0	
人件費	1,194,000	1,194,000	1,194,000	0	
専門家謝金	1,721,700	1,798,995	1,798,995	0	
車両費	100,000	33,681	33,681	0	
広告宣伝費	1,875,600	1,875,600	1,875,600	0	
広告宣伝費	378,000	378,000	378,000	0	
委託費	1,555,000	1,555,000	1,555,000	0	
事業管理費	1,727,000	1,727,000	1,727,000	0	
会議費	54,000	34,300	34,300	0	
印刷製本費	32,000	0	0	0	
消耗品費	254,800	300,804	300,804	0	
通信運搬費	6,000	6,000	6,000	0	
保険	52,000	37,700	37,700	0	
賃借費	1,188,000	1,156,000	1,156,000	0	
支出合計	17,840,000	17,152,589	17,152,589	0	